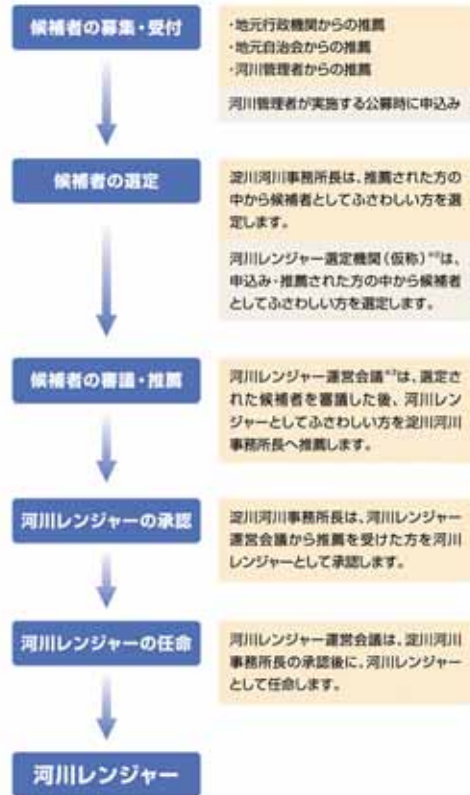


■河川レンジャーになるには

淀川管内^{※1}で活動する河川レンジャーになるには、満18歳以上の方が、次のプロセスを経て、河川レンジャーとなります。なお、河川レンジャー選定機関（仮称）を設置するまでの期間は、淀川河川事務所長が候補者の選定を行います。



※1 淀川管内
淀川河川事務所が管轄する区域であり、淀川（平出川（淀川）・瀬田川・淀川下流）、桂川（瀬田川・淀川下流）及び木津川（笠置川・淀川下流）が対象範囲です。

※2 河川レンジャー選定機関（仮称）
淀川河川事務所が設置する予定の河川レンジャーの候補者を公平に選定する機関です。

※3 河川レンジャー運営会議
河川レンジャーが活動するエリアの地元有識者や自治体等で構成され、河川レンジャーに対する指導・業務支援等を行うことを目的として、淀川河川事務所の委託（指定活用）に受けられる会議です。

River Ranger

河川レンジャーは、川を守り育てる意志と責任のもとで、個性と特性を活かした活動を行っています。

川と人、人と人を結ぶ 河川レンジャー



■お問い合わせは——
国土交通省
近畿地方整備局 淀川河川事務所
〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目2番10号
TEL 072-843-2861
<http://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa>

これからの川は



今までの川は、治水・利水を中心に国や自治体が整備を進めてきました。しかし、川の整備により、かつては盛んであった人と川との係わりが薄らいでいき、川の存在は人々の意識から遠ざかっていきました。

本来、川は、さまざまな生物を育み、地域固有の生態系を形成する空間であり、地域共有の公共財産です。そのため、「これからの川」は、地域住民、国・自治体および河川管理者(以下、「住民等と行政」という。)が連携して、地域の特性や実状に応じた手法で、共に守り、育てていくことが望ましいものと考えられます。

これらのことから、人々の価値観、川の利用形態や係わり方が多様化した「現在の川」には、これまで以上の住民ニーズへの対応と情報の共有が必要であり、「住民等と行政との連携・協働による川の管理」が必要となっています。

■河川レンジャーとは

河川レンジャーは、住民等と行政が連携・協働して、川を守り、育てるために誕生した存在です。この河川レンジャーとは、川との係わりが深く、川に関するさまざまな取り組みの主導的な立場にあって、住民等と行政とを調整し、まとめることができる地域の情報や知識に詳しい人や団体です。

河川レンジャーは、河川管理者の代理人ではなく、自らの意志と責任のもとで、個性と特性を活かした活動を行います。

また、地域共有の公共財産である川をよりよい環境にするという観点から、住民等と行政が日常的な信頼関係を築き、住民参加による川の管理を目指して、住民等と行政との橋渡し役となることが河川レンジャーの務めです。

【河川レンジャーの関係図】



■河川レンジャーの活動とは

河川レンジャーの活動は、自らの得意分野・能力を活かした活動を自ら計画して頂き、その計画に沿った活動を実践して頂きます。活動内容は、川に係わる防災、管理、環境、歴史、文化及び川づくり等の多岐にわたる活動を対象としています。現時点において進められる主な活動は次のとおりです。

また、河川管理者は、河川レンジャーとしてふさわしい活動に対して、実費等を支援します。

【河川レンジャーの主な活動内容】

| | |
|----------------------|---|
| 防災の推進を図る活動 | ○防災意識の啓発(体験談に基づく水害への対応方法の学習会等) ○自主防災活動の活性化(水防活動、集団避難活動等) |
| 川の管理を支援する活動 | ○不法投棄の監視 ○河川利用者への安全指導 ○河川美化(清掃活動、除草活動等) ○節水意識の普及・啓発・学習 |
| 川の環境保全を図る活動 | ○環境啓発(自然観察会等) ○動植物の保護、貴重種の監視 ○水質監視・測定 |
| 川の歴史・文化を普及・啓発する活動 | ○歴史・文化教室(河川と地域の歴史、河川にまつわる文化等) ○イベント ○河川啓発(体験学習、出前講座等) |
| 川づくり・人づくりへの参画・支援する活動 | ○住民等の河川整備の計画段階からの参画・支援 ○川の人材育成 |

■河川レンジャーの活動例

京都市伏見区では、河川レンジャーの企画・運営により、宇治川及び宇治川派流(濠川)を活動エリアとして、地域の小学生(3・4年生)を対象に、「体験学習による河川への啓発」と「川の人材育成」を目的とした次の3つの活動が実践されています。

活動① 船の上から川の観察

かつて淀川舟運の拠点として栄えていた伏見港(現在の宇治川派流)を、当時も運航していた十石舟に乗り、現在の川の様子を観察しながら、川とともに発展した伏見を考える。



活動② 川に生息する生物を観察しながら川の清掃

川に生息している生物の観察や川の清掃活動を通じて、川の自然環境のすばらしさや現状の問題点を知り、川の環境保全の大切さを考える。



活動③ 伏見の歴史・川についての講義

淀川舟運と伏見の歴史・文化、伏見を流れる川の概要、伏見の水害写真を用いた洪水の恐ろしさ等をテーマとした講義を受けて、川の役割や水と暮らしの係わりを考える。



3つの活動を行った小学生は、この体験をきっかけとして、自分たちが住んでいる地域と川を考え、伏見の歴史や川を大切にできるリーダーの「京都伏見ジュニア河川レンジャー」となり、川との係わりを日常的に継続していくことが期待されています。

平成15年度は、約400名の「京都伏見ジュニア河川レンジャー」が誕生し、平成16年度は、約500名の「京都伏見ジュニア河川レンジャー」が誕生しようとしています。